

平成 29 年 2 月 11 日、スラバヤ市にて第 7 回感染症研究国際ネットワーク市民講座を開催しました。

インドネシア国スラバヤ市において在留邦人を対象に感染症に関する市民講座（13:00 - 15:00、参加者 18 名）を開催しました。最初に、神戸大学インドネシア拠点の清水一史客員教授に「インフルエンザ」についてお話いただきました。インドネシアにおける高病原性鳥インフルエンザ H5N1 ウイルスの人への罹患状況など最新の情報をご紹介いただきました。続いて神戸大学大学院医学研究科感染制御学分野の勝二郁夫教授には、「感染性下痢症」に関してお話いただきました。サルモネラ菌などの細菌性の下痢症から、日本でも流行しているノロウイルスなどのウイルス性の下痢症、輸入感染症（アメーバ赤痢、腸チフス等）まで幅広くお話をしていただきました。講演終了後にはご参加いただいた方々から鳥インフルエンザウイルスの予防、ロタウイルスワクチン接種に関する質問等がありました。今後も感染症やインドネシアで罹りやすい病気について在留邦人の皆様により多くの情報を発信していけたらと思います。本市民講座はアウトリーチ活動の一環として行われました。



1. 食品内毒素型、神経毒素
2. 嫌気性菌であり、酸素のない環境での食品で増殖
3. 真空パックのからしれんこん、い
4. 毒素型としては潜伏期長い
5. 潜伏期 10-40時間
6. 複視、発声障害、嚥下障害、呼吸
7. 発生頻度は低いが高死亡率が高い
8. 毒素は加熱処理で失活